

## 理工学部コース横断 修士中間発表 2024

2024年4月25日(木) 17:00~20:00

@3号館 1階 ザクロ

講演 番号	講演題目 /発表者@学年・所属コース・所属研究室
1	マイクロ波を利用したエステル・アミドの簡便合成とその反応促進効果に関する考察 荒井 りこ (あらいりこ) 修士2年@生命科学 飯田研究室
2	マイクロ波照射下におけるルテニウム-ビピリジル錯体の合成 稲餅 舞 (いなもち まい) 修士1年@生命科学 飯田研究室
3	MEMS センサを用いた3軸合成FFTによる転がり軸受の損傷検出とその検出精度 今井 祐樹 (いまい ゆうき) 修士2年@先進機械 堀田研究室
4	層状マンガン酸化物の層間金属錯体変化がキャパシタ電極性能に及ぼす影響 大川 諒輔 (おおかわ りょうすけ) 修士2年@応用化学 友野研究室
5	チャンドラ・ディープ・フィールドサウス(CDF-S)における活動銀河核のX線スペクトル解析 川邊 優衣 (かわべ ゆい) 学部4年@数理・物理 中嶋研究室
6	ケミカルシャペロンによるハプト藻の高温耐性改善について 高 雨沁 (こう うちん) 修士1年@生命科学 新家研究室
7	UAVから撮影した赤外線画像を用いた物体検出手法の密漁対策の検討 小林 政智 (こばやし まさとも) 修士2年@情報ネット 元木研究室
8	ケヅメリクガメの酸味受容体OTOP1とエサ探索行動の相関解析 紺谷 匠 (こんや たくみ) 修士2年@生命科学 海老原研究室
9	電解液変更によるCo錯体を含む層状マンガン酸化物を用いた低電位水素生成 佐々木 涼 (ささき りょう) 修士1年@応用化学 友野研究室
10	超新星爆発における原子核の組成 志田 敦 (しだ あつし) 学部4年@数理・物理 古澤研究室
11	金時草のメラトニン合成酵素T5Hの配列決定 島田 剣太 (しまだ けんた) 修士1年@生命科学 海老原研究室
12	ステンレス製小径玉軸受の寿命調査 周 正 (しゅう せい) 修士1年@先進機械 堀田研究室
13	力覚フィードバック装置の開発と評価 関口 音夢 (せきぐち おむ) 修士1年@情報ネット 平澤研究室
14	金属錯体を挿入した層状MnO <sub>2</sub> 薄膜の水素生成に及ぼす可視光照射の影響 瀬沼 愛佑梨 (せぬま あゆり) 修士2年@応用化学 友野研究室
15	宇宙軟X線観測用CCD+CMOSハイブリッドセンサカメラの開発 高木 直矢 (たかぎ なおや) 学部4年@数理・物理 中嶋研究室

16	マイクロ波照射法を用いた4-フェニル酪酸等の簡便な合成法の検討 高橋 朱音 (たかはし あかね) 修士2年@生命科学 飯田研究室
17	Virtual Analog Modelling を使用したエフェクタの再現 高橋 亮樹 (たかはし かつき) 修士1年@情報ネット 平澤研究室
18	Python を用いた銀河系のN体シミュレーション 高橋 良朋 (たかはし よしとも) 学部4年@数理・物理 古澤研究室
19	微細藻類 <i>Tisochrysis lutea</i> における形質転換系の最適化 徳江 快斗 (とくえ かいと) 修士2年@生命科学 新家研究室
20	ジシアル T 抗原の合成を目的とした構成単位の合成検討 縄 大輝 (なわ だいき) 修士2年@生命科学 飯田研究室
21	可視光応答型層状マンガ氧化物を正極材料に用いたアニオン駆動型電池の高容量化と開発 花谷 明信 (はなや あきのぶ) 修士2年@応用化学 友野研究室
22	X線撮像分光衛星 XRISM 搭載 Xtend の軌道上エネルギー較正 早川 海都 (はやかわ かいと) 学部4年@数理・物理 中嶋研究室
23	脂質イオン種による層間反応場の性質変化の制御と有機色素の吸着 松井 誠実 (まつい まさみ) 修士1年@応用化学 友野研究室
24	宇宙軟 X 線観測用 CMOS カメラの開発 宗村 光留 (むねむら ひかる) 学部4年@数理・物理 中嶋研究室
25	円筒ころ軸受におけるラジアル荷重と転動体公転速度との関係 矢嶋 皓範 (やじま ひろのり) 修士2年@先進機械 堀田研究室
26	簡易的で実践的な炎色反応実験 山内 弥佳 (やまうち もか) 修士1年@生命科学 飯田研究室
27	層状 MnO <sub>2</sub> の色素吸着型キャパシタへの展開に関する研究 吉野 暖人 (よしの はると) 修士1年@応用化学 友野研究室
28	ケヅメリクガメの辛味受容体 TRPV1 遺伝子の解析 若林 貴大 (わかばやし たかひろ) 修士1年@生命科学 海老原研究室

## 【研究室 URL】

### 生命科学コース

- ・海老原研究室：<https://seimei.kanto-gakuin.ac.jp/mitsuruebihara/>
- ・飯田研究室：<https://seimei.kanto-gakuin.ac.jp/hirokazuiida/>
- ・新家研究室：<https://seimei.kanto-gakuin.ac.jp/hiroyaaraie/>



### 数理・物理コース

- ・中嶋研究室：[KGU high-energy astronomy group \(kquastro.com\)](http://kquastro.com)
- ・船木研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/218>
- ・古澤研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/232>



### 応用化学コース

- ・友野研究室：<https://tomonolab.com/>
- ・鎌田研究室：<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~kg064007/kagaku/cn1/kamata.html>
- ・中山研究室：<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~kg064007/kagaku/cn1/nakayama.html>



### 先進機械コース

- ・堀田研究室：<http://home.kanto-gakuin.ac.jp/~thotta/index.html>



## 情報ネット・メディアコース

- ・平澤研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/235>
- ・元木研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/168>
- ・高橋研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/228>
- ・吉川研究室：<https://rikou.kanto-gakuin.ac.jp/teacher/241>



## 電気・電子コース

- ・石坂研究室：<http://ee.kanto-gakuin.ac.jp/lab05.html>



## 土木・都市防災コース

- ・福谷研究室：<http://yofukutani.com/index.html>



## 表面工学コース

- ・田代研究室：

<https://kyouin.kanto-gakuin.ac.jp/public/v2kgr/jpn/ResearcherInformation/ResearcherInformation.aspx?KYCD=00132870>



## 開催趣旨 (2022年4月1日)

昨今の感染症により、学会はほとんどが「遠隔」となっています。いまだ対面を経験していない学生さんもいるかと思います。遠隔のおかげで移動時間がなくなるというメリットはありますが、デメリットも個人的に多くあると感じています。

◆ ひとつ目に「雑談」があります。以前は、「せっかく来たんだから雑談でもしましょうか。。。｣という感じで、雑談の中から新しい研究プロジェクトが立ち上がったたりもしていました。遠隔の場合、必要な話が終わると「ログアウトする」ため、意識をしないと雑談がなくなっている状況です。

◆ ふたつ目に「受動的情報取得の欠如」です。研究に関係する「学会発表」や「学術論文」は能動的に情報取得しているために最新研究の内容は把握しています。一方、「興味のない発表や論文」に目を通す時間がほとんどなくなりました。以前は、会場で内職したり・ポスター会場などをまわっているなかで、「これ、なに?!」とか「今、こんなに精度があがってるの?!」など、能動的な情報取得では得られない研究を発展させる可能性のある情報を受動的に手にいれることができました。

これらのデメリットの他に、当大学は大学院生が少ないです。他大学は、学科にもよりますが6-7割が大学院に進学します。学部時代に仲良くしていた同級生が1年後の卒研発表で面白い研究をやっていることに驚いたかと思います。大学院の同級生が多いということは、より専門性を高めた同級生が増えるということです。物理的な距離や母校と一緒にいるのはメリットです。自分の研究室でできない事が、隣のラボでは当たり前に行っていることが普通にあたりします。また、気軽に聞けるのも物理的距離のメリットでしょう。社会人になって、気軽にメールのやり取りができるのも母校のメリットでしょう。

本発表会を通して、

- ・大学院生同士の交流 (研究の大変さも交流)
- ・理工学部のポテンシャルをコース横断で把握できる(こんなことができるのか!みたいな)
- ・大学院生としても同級生が学内にいるのは精神衛生上よいかと思います。
- ・大学院生としても学内に様々な先生と顔見知りになっておいて損はない。
- ・大学院生にとっても様々な知識を得ることは損ではないはずです。
- ・学生間の柔軟な発想による学科コース横断的な研究プロジェクトの立ち上げです。
- ・学生にとっても横断的なプロジェクト研究は非常によい経験となるかと思います。
- ・当然、研究室に配属された学部4年生の聴講も大歓迎です。(大学院生との繋がりを増やしてください。)

最後に、皆様の研究が大いに面白くなればと思っています。

(理工学部応用化学 友野和哲)